
さいたま市
サーマルエネルギーセンター整備事業
(DBO)
審査講評

令和元年 11 月 28 日

さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業
PFI等審査委員会

さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業（DB0） 審査講評
目 次

| | |
|---------------------|----|
| 第1章 事業概要..... | 1 |
| 1 事業名称..... | 1 |
| 2 公共施設の概要等 | 1 |
| 3 事業期間..... | 2 |
| 4 事業方式..... | 2 |
| 5 事業範囲..... | 2 |
| 第2章 審査方法等 | 3 |
| 1 入札の方法..... | 3 |
| 2 落札者決定までの経過 | 3 |
| 3 審査委員会の設置 | 4 |
| 4 審査委員会の開催経過 | 4 |
| 5 落札者決定の手順 | 5 |
| 6 審査手順..... | 6 |
| 第3章 最優秀提案選定結果 | 9 |
| 1 一次審査..... | 9 |
| 2 二次審査..... | 9 |
| 3 加点項目審査..... | 10 |
| 4 総合評価値の算出 | 14 |
| 5 最優秀提案の選定 | 14 |
| 第4章 総評..... | 15 |

第1章 事業概要

1 事業名称

さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業（DBO）

2 公共施設の概要等

(1) 名称

サーマルエネルギーセンター

(2) 建設予定地

- ア 所在地 さいたま市見沼区大字膝子 626 番地 1 外
- イ 敷地面積 約 46,000m²（全体）

(3) 施設の概要

ア 新設する施設（建設対象施設）

(ア) 高効率ごみ発電施設

| | |
|-------|--|
| 処理方式 | ストーカ方式（焼却灰の外部資源化）、シャフト炉式ガス化溶融方式又は流動床式ガス化溶融方式のいずれかの方式 |
| 処理能力 | 420t/日（140t/24h×3 炉） |
| 処理対象物 | もえるごみ、破碎残渣、その他 |

(イ) マテリアルリサイクル推進施設

| | |
|-------|--|
| 処理方式 | <p>破碎設備（もえないごみ）：一次破碎＋高速破碎＋磁気選別＋アルミ選別＋可燃物選別＋不燃物選別＋搬送、保管</p> <p>破碎設備（不燃性粗大ごみ）：高速破碎＋磁気選別＋アルミ選別＋可燃物選別＋不燃物選別＋搬送、保管</p> <p>破碎設備（可燃性粗大ごみ）：切断</p> <p>破碎設備（有害危険ごみ）：</p> <p>（蛍光管） 手破袋＋蛍光管破碎＋ドラム缶詰め＋保管</p> <p>（水銀体温計） 手破袋＋ドラム缶詰め＋保管</p> <p>（ライター） 手破袋＋ライター破碎</p> <p>（スプレー缶） 手破袋＋フレコンバッグ詰め＋保管</p> <p>（乾電池） 手破袋＋ドラム缶詰め＋保管</p> <p>選別設備（びん）：破除袋＋選別＋保管</p> <p>選別設備（かん）：破除袋＋選別＋圧縮梱包等＋保管</p> <p>保管設備（適正処理困難物）：</p> <p>（ポケットコイル入りマットレス、ソファー） 手解体</p> <p>（その他の適正処理困難物等） 保管</p> |
| 処理能力 | <p>破碎設備 ： 28 t/日</p> <p>選別設備（びん） ： 14 t/日</p> <p>選別設備（かん） ： 7 t/日</p> <p>保管設備 ： ー</p> |
| 処理対象物 | <p>破碎設備 ： もえないごみ</p> <p>選別設備（びん） ： びん</p> <p>選別設備（かん） ： かん</p> <p>保管設備 ： 適正処理困難物等</p> |

イ 解体撤去する施設（解体対象施設）

| | |
|-------|--|
| 処理方式 | 全連続燃焼式（ストーカ式） |
| 施設規模 | 300t/日（100t/24h×3 炉） |
| 構造 | 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造 |
| 階数 | 地上 5 階 |
| その他施設 | 粗大ごみ処理施設、管理棟、進入路、退出路、計量棟、自動洗車場、ポンプ室、危険物倉庫、薬剤貯留棟、煙突、リサイクルセンター作業棟、リサイクルセンタープラザ棟、ストックヤード等 |

3 事業期間

- 事業期間 : 事業契約締結日から 2040 年 3 月 31 日まで
 設計・建設期間 : 事業契約締結日から 2027 年 3 月 31 日まで
 ※建設対象施設の竣工及び引渡し : 2025 年 3 月 31 日
 運営期間 : 2025 年 4 月 1 日から 2040 年 3 月 31 日まで
 (運営準備期間 : 事業契約締結日から 2025 年 3 月 31 日まで)

4 事業方式

さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業（DBO）（以下「本事業」という。）は、サーマルエネルギーセンター（以下「本施設」という。）の設計・建設（解体対象施設の解体工事を含む。以下同じ。）及び運営に係る業務を事業者が一括して行う DBO（Design:設計、Build:建設、Operate:運営）方式により実施する。さいたま市（以下「市」という。）は、本施設の設計・建設及び運営に係る資金を調達し、本施設を所有する。

5 事業範囲

本事業は、「さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業」（以下「全体事業」という。）を構成する 2 つの事業のうちの 1 事業である。全体事業、本事業及び「さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業（リサイクル 0）（Operate:運営）」（以下「事業（リサイクル 0）」という。）の構成を以下に示す。

| | | | |
|---------|--------------------------------------|------------------------|-------------------------|
| 事業名称 | さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業 【全体事業】 | | |
| 設計・建設業務 | さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業（DBO） 【本事業】 | | |
| 運營業務 | | | |
| 施設名称 | サーマルエネルギーセンター 【本施設】 | | |
| | 高効率ごみ発電施設 | マテリアルリサイクル推進施設 破砕設備 | 選別設備、保管設備 |
| 設計・建設業務 | 【建設対象施設】 | | 【解体対象施設】 |
| 運營業務 | 【運営対象施設】 | 【運営対象施設（リサイクル 0）】 | — （解体撤去後の敷地内：運営対象施設） |

- ・ 【 】: 本事業において使用する用語

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者決定までの経過

落札者決定の経過は、表1のとおりである。

表1 落札者決定の経過

| 日 程 | 内 容 |
|--------------------------------|---|
| 2019年 1月 4日（金） | 入札公告 入札説明書、要求水準書、落札者決定基準、様式集、基本協定書（案）、基本契約書（案）、建設工事請負契約書（案）、運營業務委託契約書（案）、焼却灰運搬業務委託契約書（案）、焼却灰資源化業務委託契約書（案）、事業間連携に係る協定書（案）その他これらに付属又は関連する書類（以下「入札説明書等」という。）の公表 |
| 2019年 1月 4日（金） ～ 1月 21日（月） | 入札説明書等に関する質問受付（第1回） |
| 2019年 1月 16日（水） ～ 1月 17日（木） | 現地見学会 |
| 2019年 2月 22日（金） | 入札説明書等に関する質問回答（第1回）の公表 |
| 2019年 2月 26日（火） ～ 3月 4日（月） | 参加表明書及び参加資格確認申請書類の受付 |
| 2019年 3月 13日（水） | 参加資格確認結果の通知 |
| 2019年 3月 18日（月） | 参加資格確認結果に関する説明要求の受付 |
| 2019年 3月 25日（月） ～ 3月 29日（金） | 対面的対話確認事項及び入札説明書等に関する質問受付（第2回）の受付 |
| 2019年 4月 24日（水） | 対面的対話の実施 |
| 2019年 5月 31日（金） | 対面的対話結果及び入札説明書等に関する質問回答（第2回）の公表 |
| 2019年 7月 5日（金） | 入札提案書類の提出期限（ただし、郵送による場合は2019年7月3日まで） |
| 2019年 11月 7日（木） | 提案書に関するヒアリング、審査 |
| 2019年 11月 7日（木） | 開札 |
| 2019年 11月 8日（金） | 落札者の決定 |
| 2019年 11月 13日（水） | 落札者の公表 |

3 審査委員会の設置

審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む 8 名の委員により構成されるさいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業 P F I 等審査委員会（以下「審査委員会」という。）において行った。

[委員の構成]

| | | |
|---------------|--------|-------------------------------|
| 委員長 | 安登 利幸 | 亜細亜大学大学院 アジア・国際経営戦略研究科 教授 |
| 委員 (職務代理者) | 小松 登志子 | 埼玉大学大学院理工学研究科 名誉教授 |
| 委員 | 足立 慎一郎 | 株式会社日本政策投資銀行地域企画部 担当部長 |
| 委員 | 荒井 喜久雄 | 全国都市清掃会議 技術指導部長 |
| 委員 | 川寄 幹生 | 埼玉県環境科学国際センター 担当部長 |
| 委員 | 曾根 陽子 | 元日本大学生産工学部建築工学科 教授 |
| 委員 | 中島 圭一 | さいたま市建設局長（平成 31 年 3 月 31 日まで） |
| 委員 | 土取 均 | さいたま市建設局長（平成 31 年 4 月 1 日から） |
| 委員 | 望月 健介 | さいたま市都市局長 |

4 審査委員会の開催経過

本事業における審査委員会の開催経過は、表 2 のとおりである。

表 2 審査委員会の開催経過

| 日 付 | 内 容 |
|-----------------------|--|
| 平成 30 年 5 月 24 日 (木) | 平成 30 年度第 1 回審査委員会 (事業概要の説明、委員会スケジュールの確認、実施方針(案)、要求水準書(案)に関する審議) |
| 平成 30 年 8 月 3 日 (金) | 平成 30 年度第 2 回審査委員会 (特定事業の選定(案)、落札者決定基準(案)に関する審議) |
| 平成 30 年 11 月 15 日 (木) | 平成 30 年度第 3 回審査委員会 (特定事業の選定、事業者募集資料(入札説明書(案)、落札者決定基準(案)、その他関連資料)に関する審議) |
| 令和元年 8 月 28 日 (水) | 令和元年度第 1 回審査委員会 (基礎審査結果の確認、提案書内容・ヒアリング事項の確認) |
| 令和元年 11 月 7 日 (木) | 令和元年度第 2 回審査委員会 (ヒアリング、提案加点審査、価格点審査、最優秀提案の選定、審査講評の審議) |

5 落札者決定の手順

落札者決定の手順については、図1のとおりである。

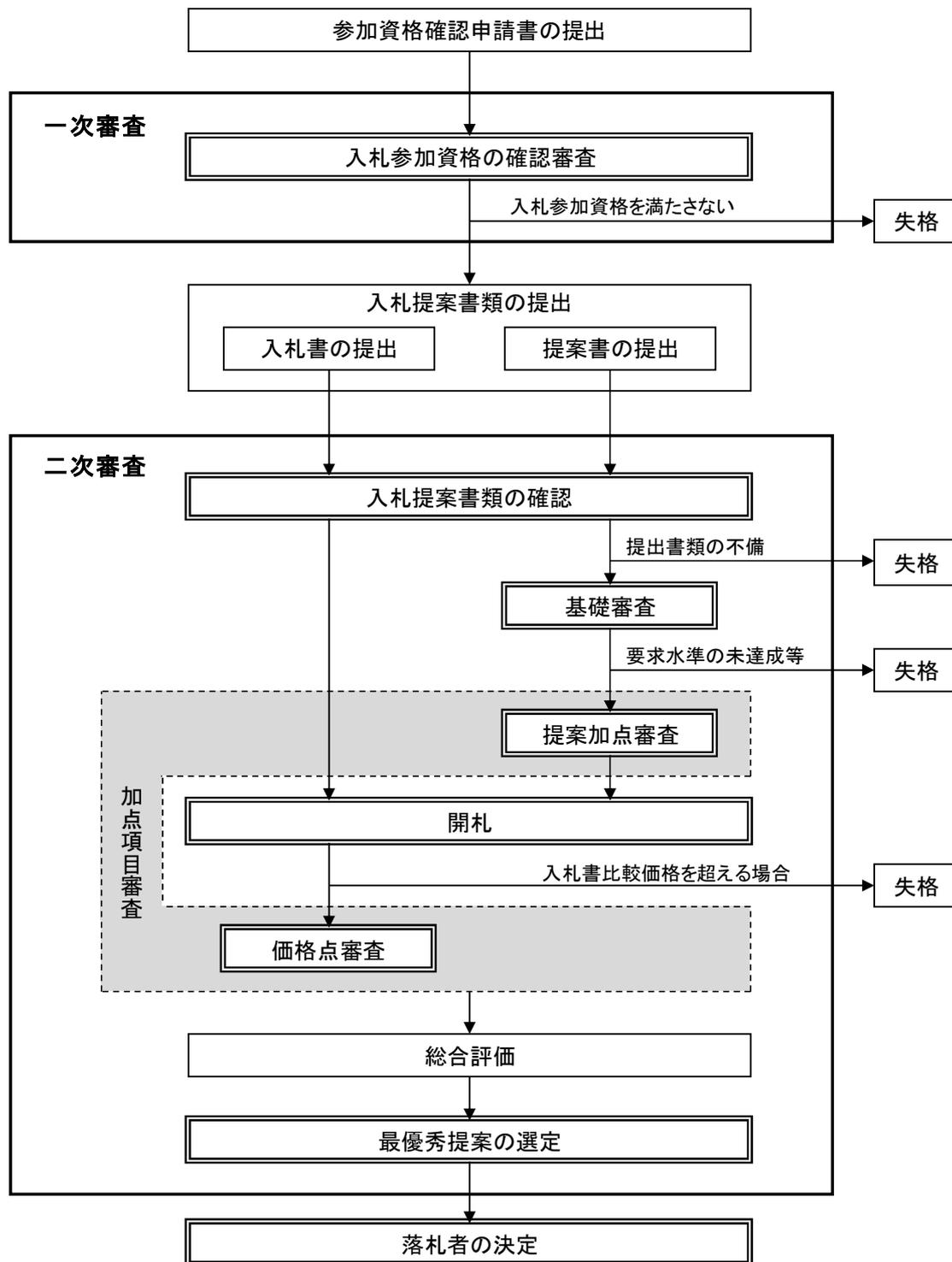


図1 落札者決定の手順

6 審査手順

(1) 一次審査

ア 参加資格要件の項目

参加表明書と同時に提出される参加資格確認申請書を確認する。

具体的には、入札説明書に記載の入札参加に関する条件等を満たしていることを市において確認する。

(2) 二次審査

ア 入札提案書類の確認

提出された入札提案書類がすべて揃っていることを確認する。

イ 基礎審査

(7) 業務遂行能力の確認

入札参加者の構成員の業務遂行能力について、企業の資力、信用力、債務返済能力等の各面から確認を行う。業務遂行能力に不安があり、かつ、代替信用補完措置（第三者による履行保証）が記載されていない場合は失格とする。

表3 業務遂行能力の確認

| 評価指標 | 指標の視点 | 評価基準 |
|---------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 自己資本比率 | 総資本のうち、自己資本の占める割合がどの程度あるか | 直近の決算でマイナスでないこと |
| 経常損益 | 事業活動において経常的に利益を生み出しているか | 3期連続でマイナスでないこと |
| 事業キャッシュフロー | 事業活動において十分な資金を生み出しているか | 3期連続で総額がマイナスでないこと |
| 利払能力（事業損益+減価償却費）/支払利息・割引料 | 当該期にキャッシュで支払利息及び割引料を支払う能力を有しているか | 直近の決算の値が1.0以上であること |
| 有利子負債依存度（有利子負債/自己資本） | 事業活動において、借入金等の負債に過度に依存していないか | 直近の決算の値が100%未満であること |
| 固定長期適合率（固定資産/固定負債+自己資本） | 調達した資本が適切に運用されているか | 直近の決算の値が100%未満であること |

(4) 提案書類の確認

提案書類に記載された内容が、次に掲げる基礎審査項目を満たしていることを確認する。

- a 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準をすべて満たしていること。
- b 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。
- c 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

ウ 加点項目審査

(7) 加点項目及び配点

加点項目審査にあたり、審査委員会が設定した審査項目及び配点を表4に示す。

表4 審査項目及び配点

| 審査項目 | | | | NO. | 配点 |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|----|-----|---------------|
| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 細目 | | |
| 1 事業方針に関する事項 | | | | | 120点 |
| | (1) 基本方針及び組織体制 | | | - | 65点 |
| | ア 基本方針 | | | 1 | 30点 |
| | イ 組織体制・人員配置計画 | | | 2 | 35点 |
| | (2) 地域経済への配慮 | | | - | 55点 |
| | ア 地元企業の活用と 市内人材の雇用 | ① 地元企業の活用計画・市内人材の雇用計画 | | 3 | 35点 |
| | | ② 地域経済への貢献金額（定量評価） | | 4 | 20点 |
| 2 設計・建設工事及び運営・維持管理に関する事項 | | | | | 420点 |
| | (1) 安全性に留意した施設運営 | | | - | 110点 |
| | ア 配置動線計画 | ① 屋外配置動線計画 | | 5 | 30点 |
| | | ② 屋内配置動線計画 | | 6 | 25点 |
| | イ 安全性と安定稼働 | ① 安全確保 | | 7 | 25点 |
| | | ② 安定稼働 | | 8 | 30点 |
| | (2) 環境への配慮 | | | - | 95点 |
| | ア 環境保全 | ① 公害防止基準を満足するための取組み | | 9 | 25点 |
| | | ② 地球温暖化対策 | | 10 | 25点 |
| | イ 見学者対応及び環境学習計画 | | | 11 | 25点 |
| | ウ 景観 | | | 12 | 20点 |
| | (3) 循環型社会への適合 | | | - | 110点 |
| | ア エネルギーの有効 活用 | ① 発電の取組み | | 13 | 20点 |
| | | ② 売電量（定量評価） | | 14 | 20点 |
| | イ 資源化及び最終処分 | ① 資源化の有効利用の確実性 | | 15 | 30点 |
| | | ② 最終処分量の最小化 | | 16 | 40点 |
| | (4) 施設の強靱化 | | | - | 75点 |
| | ア 強靱化 | ① 基本性能の維持 | | 17 | 40点 |
| | | ② 災害対応 | | 18 | 35点 |
| | (5) 施工計画 | | | - | 30点 |
| | ア 施工時の安全対策 | | | 19 | 30点 |
| 3 事業計画に関する事項 | | | | | 60点 |
| | (1) 経営計画・事業収支計画 | | | - | 40点 |
| | ア 事業収支計画 | ① 経営計画及び事業収支計画策定の考え方 | | 20 | 20点 |
| | | ② 事業の継続性に係る担保 | | 21 | 20点 |
| | (2) リスク管理方法 | | | - | 20点 |
| | ア リスクの管理及び対処方法 | | | 22 | 20点 |
| 4 価格点 | | | | | 400点 |
| | (1) 入札価格 | | | - | 400点 |
| 提案加点審査項目 | | | | | 600点 |
| 価格点審査項目 | | | | | 400点 |
| 合 計 | | | | | 1,000点 |

(イ) 提案加点審査における点数化方法

提案加点審査項目においては、表5に示す5段階評価により審査を行い、審査委員会の各委員が個別に行った評価の最大値及び最小値を除いた平均値による得点を付与する。ただし、定量評価を行う審査項目（以下「定量評価項目」という。）については、落札者決定基準に定めた算定式による得点を付与する。

表5 審査基準

| 評価 | 評価の意味 | 点数化方法 |
|----|-----------------------|---------|
| A | 当該評価項目において特に優れている | 配点×100% |
| B | AとCの中間程度 | 配点×75% |
| C | 当該評価項目において優れている | 配点×50% |
| D | CとEの中間程度 | 配点×25% |
| E | 要求水準は満たしているが、優れた提案はない | 配点×0% |

(ウ) 価格点審査における点数化方法

価格点審査においては、入札価格について、表6に示す算定式による得点を付与する。

表6 入札価格の得点算定式

$$\left(\text{価格点審査による得点} \right) = 400 \text{点} \times \left(\frac{\text{最も低い入札金額}}{\text{当該入札金額}} \right)$$

エ 総合評価

加点項目審査により算出した各入札参加者の得点から、表7に示す算定式により、各入札参加者の総合評価値を算出する。

表7 総合評価値の算出方法

$$\left(\text{総合評価値} \right) = \left(\text{提案加点審査の得点} \right) + \left(\text{価格点審査の得点} \right)$$

第3章 最優秀提案選定結果

1 一次審査

平成31年1月4日に入札公告を行い、平成31年3月4日に参加表明書及び参加資格確認申請書類を受け付けたところ、以下の3グループから申請があった。

市は入札参加資格の確認審査を行い、平成31年3月13日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表8 参加表明書及び参加資格審査申請書等提出グループ

| 受付グループ名 | ときグループ | かがやきグループ | こまちグループ |
|---------|--|---|---|
| グループ名 | 日鉄エンジニアリンググループ | タクマグループ | 川崎重工業グループ |
| 代表企業 | 日鉄エンジニアリング株式会社 | 株式会社タクマ 東京支社 | 川崎重工業株式会社 |
| 構成員 | 日鉄環境プラントソリューションズ株式会社 極東開発工業株式会社 極東サービス株式会社 株式会社エコ計画 | 株式会社タクマテクノス | 川重環境エンジニアリング株式会社 K E E環境工事株式会社 株式会社クリーン工房 ツネイシカムテックス株式会社 |
| 協力企業 | 株式会社大林組 埼玉営業所 株式会社カタヤマ 日本環境マネジメント株式会社 | 西松建設株式会社 さいたま営業所 中央建設協同組合 日本環境クリアー株式会社 新井運送株式会社 株式会社エコネコル 株式会社協和清掃運輸 太平洋陸送株式会社 太平洋セメント株式会社 ツネイシカムテックス株式会社 | 戸田建設株式会社 関東支店 新井運送株式会社 株式会社協和清掃運輸 株式会社ショーモン 有限会社太盛 太平洋陸送株式会社 太平洋セメント株式会社 中央電気工業株式会社 メルテック株式会社 渡辺産業株式会社 |

なお、審査委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において各グループの企業名は伏せ、表8の受付グループ名で識別して審査を行った。

2 二次審査

(1) 入札提案書類の確認

令和元年7月5日までに入札参加資格を有する3グループより入札提案書類が提出された。市は、各入札参加者から提出された入札提案書類がすべて揃っていることを確認した。

(2) 基礎審査

市は、業務遂行能力の確認における評価指標及び評価基準、提案書類の確認における基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。

入札提案書類を提出した3グループは、いずれも確認項目等を満たしていることが確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 加点項目審査

(1) 提案加点審査

審査委員会は令和元年11月7日に加点項目審査を行った。

審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施した。加点審査における審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、得点化を行った。なお、評価は、市の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果を表9に示す。

表9 提案加点審査の得点結果

| 大項目 | | 中項目 | | 小項目 | | 細目 | | No. | 配点 | とき グループ | かがやき グループ | こまち グループ |
|--------------------------|-----|-----|----|-----|----|------------|--------------|-----|-----|------------|--------------|-------------|
| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 細目 | No. | 配点 | とき グループ | かがやき グループ | | | | | |
| 1 事業方針に関する事項 | | | | | | | | - | 120 | 84.17 | 79.98 | 59.12 |
| (1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設 | | | | | | | | - | 65 | 39.38 | 39.38 | 35.42 |
| ア 基本方針 | | | | | | | | 1 | 30 | 17.50 | 17.50 | 15.00 |
| イ 組織体制・人員配置計画 | | | | | | | | 2 | 35 | 21.88 | 21.88 | 20.42 |
| (2) 地域経済への配慮 | | | | | | | | - | 55 | 44.79 | 40.60 | 23.70 |
| ア 地元企業の活用と市内人材の雇用 | | | | | | | | ① | 35 | 24.79 | 21.88 | 14.58 |
| ② 地域経済への貢献金額(定量評価) | | | | | | | | 4 | 20 | 20.00 | 18.72 | 9.12 |
| 2 設計・建設工事及び運営・維持管理に関する事項 | | | | | | | | - | 420 | 264.66 | 264.60 | 254.36 |
| (1) 安全性に留意した施設運営 | | | | | | | | - | 110 | 70.21 | 67.08 | 60.00 |
| ア 配置動線計画 | | | | | | | | ① | 30 | 18.75 | 18.75 | 15.00 |
| ② 屋内配置動線計画 | | | | | | | | 6 | 25 | 15.63 | 13.54 | 11.46 |
| イ 安全性と安定稼働 | | | | | | | | ① | 25 | 14.58 | 13.54 | 13.54 |
| ② 安定稼働 | | | | | | | | 8 | 30 | 21.25 | 21.25 | 20.00 |
| (2) 環境への配慮 | | | | | | | | - | 95 | 51.68 | 59.79 | 60.20 |
| ア 環境保全 | | | | | | | | ① | 25 | 15.63 | 13.54 | 14.58 |
| ② 地球温暖化対策 | | | | | | | | 10 | 25 | 10.42 | 17.71 | 17.71 |
| イ 見学者対応及び環境学習計画 | | | | | | | | 11 | 25 | 15.63 | 13.54 | 14.58 |
| ウ 景観 | | | | | | | | 12 | 20 | 10.00 | 15.00 | 13.33 |
| (3) 循環型社会への適合 | | | | | | | | - | 110 | 76.73 | 73.35 | 72.91 |
| ア エネルギーの有効活用 | | | | | | | | ① | 20 | 10.83 | 13.33 | 13.33 |
| ② 売電量(定量評価) | | | | | | | | 14 | 20 | 16.32 | 18.77 | 20.00 |
| イ 資源化及び最終処分 | | | | | | | | ① | 30 | 21.25 | 16.25 | 16.25 |
| ② 最終処分量の最小化 | | | | | | | | 16 | 40 | 28.33 | 25.00 | 23.33 |
| (4) 施設の強靱化 | | | | | | | | - | 75 | 49.79 | 46.88 | 43.75 |
| ア 強靱化 | | | | | | | | ① | 40 | 25.00 | 25.00 | 23.33 |
| ② 災害対応 | | | | | | | | 18 | 35 | 24.79 | 21.88 | 20.42 |
| (5) 施工計画 | | | | | | | | - | 30 | 16.25 | 17.50 | 17.50 |
| ア 施工時の安全対策 | | | | | | | | 19 | 30 | 16.25 | 17.50 | 17.50 |
| 3 事業計画に関する事項 | | | | | | | | - | 60 | 40.00 | 34.17 | 37.50 |
| (1) 経営計画・事業収支計画 | | | | | | | | - | 40 | 25.83 | 22.50 | 25.83 |
| ア 事業収支計画 | | | | | | | | ① | 20 | 13.33 | 11.67 | 12.50 |
| ② 事業の継続性に係る担保 | | | | | | | | 21 | 20 | 12.50 | 10.83 | 13.33 |
| (2) リスク管理方法 | | | | | | | | - | 20 | 14.17 | 11.67 | 11.67 |
| ア リスクの管理及び対処方法 | | | | | | | | 22 | 20 | 14.17 | 11.67 | 11.67 |
| 提案加点審査の得点 | | | | | | | | - | 600 | 388.83 | 378.75 | 350.98 |

提案加点審査における定性評価項目における講評は、表 10 のとおりである。

表 10 各審査項目の講評

| 審査項目 | | 講評 |
|--------------------------|----------------------|--|
| 1 事業方針に関する事項 | | |
| (1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設 | | |
| ア 基本方針 | | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、本事業の目的、特性及び市の状況等を的確に捉えた基本方針となっている点を評価した。 |
| イ 組織体制・人員配置計画 | | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、本事業を実施するために必要な組織体制が構築されている点、各グループの豊富な実績を本事業にフィードバックする提案を評価した。 ときグループ及びかがやきグループについては、事業者（リサイクル0）との連携に配慮している点を高く評価した。 |
| (2) 地域経済への配慮 | | |
| ア 地元企業の活用と市内人材の雇用 | ①地元企業の活用計画・市内人材の雇用計画 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、本事業の実施にあたって、地元企業の活用、市内人材の雇用に配慮した計画であり、実現性の期待できる市内人材への移行・教育計画である点を評価した。 ときグループについては、高い市内人材比率の計画と市内既存施設の運営経験に基づく体制強化の提案を高く評価した。 |
| | ②地域経済への貢献金額（定量評価） | |
| 2 設計・建設工事及び運営・維持管理に関する事項 | | |
| (1) 安全性に留意した施設運営 | | |
| ア 配置動線計画 | ①屋外配置動線計画 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、敷地条件を踏まえた全体配置計画である点を評価した。 ときグループ及びかがやきグループについては、安全性の確保と搬入者に分かりやすい動線が構築されている点を評価した。 |
| | ②屋内配置動線計画 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、高効率ごみ発電施設とマテリアルリサイクル推進施設の2施設間の安全性や作業性に配慮した計画となっている点を評価した。 ときグループについては、高い作業性と多種類のごみ持ち込み時の円滑な動線への工夫を評価した。 |
| イ 安全性と安定稼働 | ①安全確保 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、施設の作業員及び見学者に対する安全性が確保されている点、火災・爆発に対する十分な対策が取られている点を評価した。 |
| | ②安定稼働 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、経験に基づく、安定稼働への創意工夫がなされている点を評価した。 ときグループ及びかがやきグループについては、事 |

| 審査項目 | | 講評 |
|-----------------|--------------------|---|
| | | 業（リサイクル0）との連携による本施設全体での安定稼働に向けた提案を評価した。 |
| (2) 環境への配慮 | | |
| ア 環境保全 | ①公害防止基準を満足するための取組み | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、公害防止基準を遵守するための実効性の高い提案を評価した。 ときグループについては、高いレベルの基準設定である点やモニタリングを含む実効性の高さを評価した。 |
| | ②地球温暖化対策 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、二酸化炭素排出量に向けた工夫がなされている点を評価した。 かがやきグループ及びこまちグループについては、二酸化炭素排出量が少ない点を評価した。 |
| イ 見学者対応及び環境学習計画 | | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、多様な施設利用者に対する配慮がなされている点を評価した。 ときグループについては、具体的な環境学習プログラムを評価した。 |
| ウ 景観 | | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、圧迫感を軽減し、景観に最大限の配慮がなされている点を評価した。 かがやきグループについては、設計思想に基づく周辺環境への調和に対する工夫を評価した。 |
| (3) 循環型社会への適合 | | |
| ア エネルギーの有効活用 | ①発電の取組み | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、売電量の最大化に向けた創意工夫がなされていた点を評価した。 かがやきグループ及びこまちグループについては、運転の最適化に具体性がある点を評価した。 |
| | ②売電量（定量評価） | |
| イ 資源化及び最終処分 | ①資源化の有効利用の確実性 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、資源化の有効利用に向けた具体的な取り組みを評価した。 ときグループについては、確実性の高い有効利用計画である点を評価した。 |
| | ②最終処分量の最小化 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、最終処分量の削減に向けた創意工夫が最大限発揮されている点を評価した。 ときグループについては、市内完結型の最終処分量の最小化や市保有の最終処分場の延命が期待できる点を評価した。 |
| (4) 施設の強靱化 | | |
| ア 強靱化 | ①基本性能の維持 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、30年以上の使用を見据えた長寿命化方策とライフサイクルコストの縮減が期待できる点を評価した。 |
| | ②災害対応 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、災害に備えた設計面での創意工夫や、災害時の施設の事業継続計画（BCP）により早期の再稼働が見込める点を評価した。 |

| 審査項目 | | 講評 |
|-----------------|----------------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ときグループについては、災害廃棄物処理の確実性が高い点を評価した。 |
| (5) 施工計画 | | |
| ア | 施工時の安全対策 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、既存東部環境センターの円滑な運営と安全確保に配慮した施工計画となっている点、用地の制約や特徴を踏まえた具体的な提案により、工期遵守が十分に期待できる点等を評価した。 かがやきグループ及びこまちグループについては、工事車両、搬入・搬出車両への安全対策の工夫がなされている点を評価した。 |
| 3 事業計画に関する事項 | | |
| (1) 経営計画・事業収支計画 | | |
| ア | 事業収支計画 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、豊富な実績に基づき、長期間にわたって安定した事業継続が期待できる事業経営計画及び事業収支計画が提案されている点を評価した。 |
| | ① 経営計画及び事業収支計画策定の考え方 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、事業の安定継続に配慮して資本金を設定しており、財務リスクの最小化と不測の事態に備えた支援を十分に計画している点を評価した。 こまちグループについては、事業継続のためのより手厚い提案がなされている点を評価した。 |
| | ② 事業の継続性に係る担保 | |
| (2) リスク管理方法 | | |
| ア | リスクの管理及び対処方法 | <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、適切なリスク管理体制とセルフモニタリング計画であり、各リスクに対する必要な検討を行ったうえで適切に保険が付保される提案となっている点を評価した。 ときグループについては、安定した事業継続がより期待できるリスク管理及び多様な保険の提案を評価した。 |

(2) 価格点審査

提案加点審査終了後、市は、各入札参加者の立会いのもとで令和元年11月7日に開札を行い、各入札参加者の入札金額が予定価格の範囲内であることを確認した。

審査委員会は、開札結果の報告を受け、価格点審査として入札金額の得点化を行った。得点化の結果は、表11のとおりである。

表11 価格点審査の得点結果

| 受付グループ名 | 代表企業名 | 配点 | 入札金額（税抜） | 価格点審査の得点 |
|---------|----------------|------|------------------|----------|
| とき | 日鉄エンジニアリング株式会社 | 400点 | 56,360,000,000 円 | 360.99 点 |
| かがやき | 株式会社タクマ 東京支社 | | 51,586,000,000 円 | 394.40 点 |
| こまち | 川崎重工業株式会社 | | 50,864,100,000 円 | 400.00 点 |

4 総合評価値の算出

「提案加点審査の得点」、「価格点審査の得点」を加算して、表12のとおり総合評価値を算出した。

表12 総合評価結果（総合評価値）

| 入札参加者 | | 提案加点審査の得点 (A) | 価格点審査の得点 (B) | 入札価格（税抜） | 対入札書比較価格 | 総合評価値 (A)+(B) |
|---------|----------------|---------------|--------------|------------------|----------|---------------|
| 受付グループ名 | 代表企業名 | | | | | |
| とき | 日鉄エンジニアリング株式会社 | 388.83 点 | 360.99 点 | 56,360,000,000 円 | 100.0% | 749.82 点 |
| かがやき | 株式会社タクマ 東京支社 | 378.75 点 | 394.40 点 | 51,586,000,000 円 | 91.5% | 773.15 点 |
| こまち | 川崎重工業株式会社 | 350.98 点 | 400.00 点 | 50,864,100,000 円 | 90.2% | 750.98 点 |

5 最優秀提案の選定

審査委員会は、上記の結果に基づき「タクマグループ（代表企業：株式会社タクマ東京支社）」を最優秀提案として選定した。

第4章 総評

サーマルエネルギーセンター（高効率ごみ発電施設及びマテリアルリサイクル推進施設）は、市の既存施設である西部環境センター及び東部環境センターに替わる施設として整備するものであり、本施設の整備により、市のごみ焼却施設は現在の4施設体制から3施設体制に再編される。

本事業では、本施設の設計・建設及び運営・維持管理について、一括して発注するDBO(Design-Build-Operate)方式を採用しており、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・建設業務と、効率的かつ効果的な運營業務を実施するものである。さらに、将来にわたり安全で安定したごみの適正処理や、循環型社会を構築するための資源回収及びエネルギー回収を進めることを目的としている。

このような背景を踏まえ、総合評価一般競争入札により市が落札者を選定するにあたり、審査委員会では、透明性、公平性に最大限配慮した審査基準及び方法等を定め、事業者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した3グループの提案は、いずれも本事業の目的を的確に捉え、市が要求する水準を上回る提案内容であり、市の課題に対応した的確かつ効果的な提案が多数見受けられた。3グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうしたなかで提案をまとめた応募者の熱意及び姿勢に敬意を表するとともに、深く感謝する。

審査においては、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、株式会社タクマ 東京支社を代表企業とするタクマグループを最優秀提案として選定するに至った。

タクマグループの提案については、事業全体を見渡したバランスの取れた提案であり、市の現状を踏まえた深い考察が多く見られ、提案の具体性、確実性があるものとして評価された。

上記の評価をする一方で、タクマグループの提案内容に対して、以下に示す配慮・要望事項が挙げられた。

- ① 要求水準事項及び提案内容を確実かつ誠実に履行すること。
- ② 市が掲げる「最終処分量の低減」、「高効率発電」、「施設の強靱化」、「安全性に配慮した施設運営」を具現化できるよう努めること。
- ③ 周辺環境と調和した景観となるよう施設の外観及び既存樹木の保存等に一層配慮した建築設計とすること。
- ④ 市民の一般持込に対する更なる安全性の向上に向けた搬入動線及び安全対策を構築すること。
- ⑤ 事業期間を通じて資源化物の資源化を確実に実施すること。
- ⑥ 地元貢献と市内人材の活用の更なる拡大に努めること。

最後に、事業期間を通じて市とタクマグループが良きパートナーとなり、地域との信頼関係を築きながら本事業を円滑に推進することを希望する。また、上記の配慮・要望事項について、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするために市と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。

令和元年 11 月

さいたま市サーマルエネルギーセンター整備事業PFI等審査委員会
委員長 安登 利幸